

# オープン カレッジ

名古屋大学大学院  
経済学研究科講師

## 氏英 近為



貿易自由化や地球温暖化対策などに関する国際交渉に際して、あるいは国内政策立案

・決定に際して、事前に経済モデルを用いた、それらの経済効果の試算が要求される。試算に従事する者は経済モデ

ためちか はなえ 応用一般均衡モデル分析、計量経済学。大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学、博士（応用経済学）。1979年生まれ。

ルを用いて、それら国際的取  
り決め・政策変更が、日本の  
産業や家計に与える影響など  
について定量的に評価する。  
政策担当者は示された試算結  
果を参考に国際交渉や政策立  
案・決定を行う。  
試算結果は公表されるが、  
その影響の試算結果は異な  
る。

### 政策効果試算と評価

数値結果のみに関心をもたれ  
ることが多い。しかしなが  
ら、数値結果は経済モデルに  
設定する経済理論、関数形、  
パラメータ、データ、シナリ  
オなどの前提条件（仮定）に  
依存するものである。すなわ  
ち、試算結果はモデルによっ  
て異なる。例えば、環太平洋

## 試算モデルの理解が必要

って、モデルを構築する際に  
は適切なパラメータを設定す  
ることが必要であり、試算に  
大きな影響を与える可能性の  
ある重要なパラメータに関し  
ては、そのパラメータの値を  
変化させて複数の試算を行う  
という感応度分析が行われ  
る。

モデルによって試算結果は  
異なることから、国際的取り  
決め・政策変更の評価を行う  
際には、様々な経済モデルを  
用いて様々な試算を行うこと  
が求められる。また、経済モ  
デル構築に従事する者は、試  
算に用いた経済モデルについ  
て、モデルの構造、使用した  
データの詳細、そのほか設定  
した前提条件などについて、

第三者が再現できるような内  
容で説明する必要がある。そ  
うすることで、試算に用いた  
モデルの改善点を議論し、モ  
デルを改良することができ  
る。

さらに、経済モデル構築に  
従事しない者への、試算に用  
いた経済モデルの構造や前提  
条件について、理解を深める  
ことができる。一方で、国際  
交渉や政策立案に従事する者  
は、数値結果のみに一喜一憂  
するのではなく、その数値結  
果がどのようなモデルで試算  
されたものか理解したうえで、  
試算結果を評価することが  
必要である。

今日、公表されているモデル  
のデータやプログラムを入手  
することは容易である。ま  
た、パソコンの性能も向上  
し、安価なソフトウェアも普  
及し、誰でも経済モデルを用  
いて政策の効果を試算するこ  
とができる。しかし、用いる  
モデルの構造・特性を理解し  
たうえで、試算する必要があ  
る。また、公表されたモデル  
の一部の前提条件を変更して  
独自の試算を行うことも容易  
ではあるが、設定するパラメ  
ータやデータが適切であるか  
など検討することが重要であ  
り、さらに、その試算結果を  
公表する場合にはそれらの前  
提条件についても公開する必  
要がある。